



駒澤大学卓球部による「卓球教室」

「ぜひ、また来たい」と 思えるスポーツのまちへ



スポーツ課
スポーツ合宿担当
おおいしかずはる
大石一晴主査

市では、大井川河川敷マラソンコースの完成を契機に、その活用と併せ、スポーツ合宿の誘致を始めました。スポーツ合宿には、宿泊・食事・買い物など地域への直接的な経済的効果と、全国レベルの



トラックの計画図(右上)

競技者を目的にしたりして、スポーツへの関心が高まり、技術力や競技力がアップし、市民スポーツの振興が図れる間接的な効果があります。「スポーツのまち島田市」を全国発信し、交流人口の拡大による地域の活性化が図られるという点では、市の繁栄に大きく寄与します。合宿団体が行う、市民対象の教室やセミナーは、その効果の一つです。

スポーツ合宿の誘致を始めた平成13年度の誘致件数は、延べ10チーム、1413人でした。その後、誘致活動を続ける中で徐々に増加し、平成23年度には延べ58チーム、7560人となりました。市内で行われるスポーツ合宿は、長距離陸上競技が中心で、約7割を占めています。

す。これまでに、亜細亜大学陸上部(東京都)・トヨタ紡織陸上部(愛知県)・NTN(三重県)・佛教大学女子陸上部(京都府)・ヤマダ電機女子陸上部(群馬県)などをはじめ、全国的に活躍しているチームが訪れています。また最近では、卓球やソフトボール、野球などの合宿も増えてきています。宿舎や練習会場の確保、送迎などの合宿の手配は、行政(市職員)が窓口となって行っています。合宿前には、監督や選手と接触して食事への注文や選手の状態、練習内容などの情報を事前に把握し、合宿中も24時間体制で連絡がとれるようにするなど、監督と選手本位の接客を徹底しています。また、全国の主要な大会に向いて、直接激励し、信頼と安心が伝わるよう、

誠実な対応に努めています。合宿では、ホテルや旅館をはじめ、商工会議所や各種競技団体など、多くの市民の皆さんの協力をいただいています。行政と市民が共に選手たちを迎え、練習に集中できる環境をつくることを念頭に、きめ細かな対応をすることで「また島田に来たい」と思ってもらえるまちを目指します。今後は、競技種目の幅を広げ、年間を通じた合宿誘致を展開していきます。そして、その情報を市民の皆さんに積極的に発信するとともに、触れ合いや交流の場を提供し、市民スポーツの振興につなげていきたいです。市内で合宿をしている選手を見かけたら、ぜひ「こんにちは」「頑張つて」など、手を振って応援してください。

スポーツ・文化合宿が 地域に育むものとは

文化合宿誘致促進事業は、交流人口の拡大を目的として、平成21年度から始まりました。「島田茶」「金谷茶」「川根茶」の3ブランドを擁す、全国屈指の茶処の成長を生かして、今年度から大学茶道部をターゲットにした誘致活動を始めました。今年度は、大正大学と玉川大学の茶道部が合宿に訪れました。



玉川大学の手もみ茶体験

合宿は主に、川根地区にある茶室「杉風庵」で行われました。4～5日の合宿期間中、学生は朝9時から夜6時まで、全ての時間を稽古に費やし、厳しい稽古の合間の一日は、茶摘みや手もみ茶といったお茶に関わる体験をしました。さらには、小学生や地域住民を招いたお茶会を開催してくれました。学生からは「これまでにない経験ができ、充実した合宿だった」「初めてお茶つ葉を見て感動した」といった都会っ子ならではの言葉も飛び出しました。また、茶道に情熱を傾ける学生の姿を見た小学生は、茶処・島田に対して誇りを感じたようでした。

①宿泊・飲食などの消費による地域経済の活性化 ②杉風庵・お茶の郷博物館などの利用率向上と知名度アップ ③茶処としての宣伝効果によるお茶の消費拡大、といった効果が考えられます。スポーツ合宿誘致促進事業での「長距離陸上競技をターゲットとした成功例」にも倣い、文化合宿誘致促進事業では、当面、大学茶道部を中心に誘致を進めていく予定です。誘致活動を進める上で、苦勞している点もあります。例えば、大学側は個人情報保護をすべき立場から、茶道部の代表者になかなか電話を取り次ぎません。行政であっても、学生課を通して



川根温泉ホテル(仮称)計画図

でも、営業活動は取り次がない学校が多いのです。また、全国的にも合宿誘致に力を入れている自治体が多く、厳しい競争にさらされています。長野県では、県が合宿地を紹介するパンフレットを作成したり、東京に専門スタッフを配置したりするなどの方法をとっています。島

田市としては今後、ソーシャルメディアを活用した誘致活動を試みます。平成26年7月には、川根温泉ホテル(仮称)がオープンし、川根地区の魅力が高まることから、合宿に来た学生に島田の良さを伝え「また来たい」「友達にも島田の良い所を教えてください」と思ってもらえるように、努力を続けていきます。また、市民の皆さんからも、学生たちへ「ありがとう」「頑張つて」などと、声を掛けていただくと、島田のまちの良さを、さらに宣伝できると考えます。大学茶道部の合宿誘致は始めたばかりですが、将来は「大学茶道部の聖地」と呼ばれるよう、市民の皆さんと夢を持って、進めていければと思います。



観光課
文化合宿担当
おきたかひろ
金田隆宏主査

大学茶道部合宿の「聖地」を 目指す島田の取り組み